

# 週刊センターニュース

No.250



第250号(2009年3月12日)臨時発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 《3月の共同学習会 FD 特集号》

統一テーマ 「大学の教育力を高める教育技術とは—クリッカーとその周辺—」  
日時: 2009年3月30日(月)・31日(火)、両日とも10時30分—17時30分  
場所: 金沢大学角間キャンパス 総合教育1号館 6階 E1講義室  
主催: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
企画: 教育支援システム研究部門 青野 透

趣旨: 本学は大学憲章において、「学生の個性と学ぶ権利を尊重し、自学自習を基本とする。また、教育改善のために教員が組織的に取り組むFD活動を推進して、専門知識と課題探求能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材を育成する」と謳っている。この基本理念に基づき、本学のいわゆるFDセンターとしての機能を担う大学教育開発・支援センターは、カリキュラム開発や教育内容改善等、その時々々の教育課題をテーマに共同学習会を毎週実施し、FD研修・研究の場としてきた。また、各専任教員によるFD研究成果や、大学教育学会などの関連学会・各大学等で実施されるFDセミナー等への参加報告等を掲載した『週刊センターニュース』の発行・ウェブ掲載により、教育改善のための情報共有化を図ってきた。

昨年2月には、個々の教員の教育改善意欲に対して、より効果的に答えるために、全教員対象の「教育効果とFDに関する教員アンケート」を実施した。その結果、例えば「教育効果を高めるために、本学において今後、どのようなFD活動を行えばよいと思いますか(複数回答可)」との問いに対して、「授業方法の改善をテーマにした講習会」との回答が最も多かった(265名のうち96名)ことに現れているように、教育方法改善が多くの教員にとって課題であることが確認された。

これを受けて、当センターでは、今年度、高等教育クリッカー研究会を立ち上げ、クリッカーを具体的な授業方法の改善として提案してきた。160人を超える参加者を得て開催した第6回大学教育セミナー『FD・ICT教育推進室が進めている学士課程教育の改革に伴うFD推進と教育実施・支援モデルの構築(最終報告)』(2月14日開催)でも、実際にクリッカーを使用し、多くの教員から、授業で実際に使ってみてみたいとの意見をいただいた。

『平成19年度 私立大学教員の授業改善白書』(私立大学情報教育協会、平成20年5月)によれば、大学専任教員334校21,797名の回答から、「授業で直面している問題点」として「動機付け・学習意欲を高める工夫が難しい」(47.6%)、「学習意欲を高めるような授業設計・運営を工夫したい」(79.1%)、「授業中に学生の反応を捉え、理解度に応じた授業をしたい」(60.0%)との、結果が得られている。クリッカーは、こうした大学教員に普遍的な課題の解決に結びつき、同時に、その活用技術を身につければ、自らの授業設計を振り返り、その場で軌道修正できる(一人で自律的に実施可能な)教育改善のための道具と位置づけることが出来る。

今回の集中共同学習会では、すでに授業でクリッカーを使っておられる、二つの大学の方のご報告を受けるとともに、小さな送信装置に過ぎないクリッカーを中心に、その活用から導き出される教育方法改善の様々な可能性を探っていくことが主題となる。また、本学の学生の現在の姿

に即した教育方法改善提案および、情報通信技術を用いた学習システムに関する情報も折り込むことにより、新年度からの授業改善に直接つながる共同学習会としたい。

### 第一日 3月30日 月曜日

●第219回共同学習会 10時30分～12時

テーマ：「クリッカーから始まる授業改善の新段階－橋本勝他『学生と変える大学教育』（ナカニシヤ出版、2009年）第13章と第15章を読む－」

報告者：青野 透（大学教育開発・支援センター）

●第220回共同学習会 13時30分～15時

テーマ：「学習動機付けと ICT 活用教育の課題－金沢大学の学生の現状を踏まえて－」

報告者：鎌田 康裕（FD・ICT 教育推進室）

内容：クリッカー活用は、本学の ICT 教育推進の中で試みられるものである。本学の ICT 教育を、学生中心の教育改善という視点から振り返る。

●第221回共同学習会 16時～17時30分

テーマ：「クリッカーはなぜ欧米の大学で爆発的に普及したのか」

報告者：山川 達也（キーパッド・ジャパン社） 指定発言者：山田 政寛（東京大学）

### 第二日 3月31日 火曜日

●第222回共同学習会 10時30分～12時

テーマ：「ピア・インストラクションと物理教育－クリッカーの授業活用を中心に－」

報告者：新田 英雄（東京学芸大学） 指定発言者：山川 達也

●第223回共同学習会 13時30分～15時

テーマ：「高等教育における教育内容と教育方法・技術との関係－携帯電話対応コメントカードシステムやクリッカーで思考を促し、理解度を確認－」

報告者：宮田 仁（滋賀大学）

●第224回共同学習会 16時～17時30分

テーマ：「大学における学習システムとその背景」

報告者：山田 政寛（東京大学）

内容：近年の情報通信技術の発展により、大学では様々な情報通信技術を用いた学習システムが導入されている。近年注目されている情報通信技術を用いた学習システムに関する研究をいくつか紹介し、そのシステムの有効性を仮説とする理論的背景とその学習効果について説明する。

※参加ご希望の方は、可能な限り事前に、メールにてご連絡をお願い致します。

E-mail : [info-rche@ge.kanazawa-u.ac.jp](mailto:info-rche@ge.kanazawa-u.ac.jp)

**※二日間、全6回の共同学習会の企画ですが、各回のテーマに従い、ご関心のある回だけ、ご都合のつく時間だけの参加でも結構です。**会場は、4月より新たに使用される講義室です。可動式の机が設置されており、当センター教員が担当する授業は基本的にここで実施し、複数のプロジェクターを持ち込むなど、グループ学習を中心とした諸種の研究授業にも活用していく予定です。

**なお、第219回共同学習会でとりあげる橋本勝他『学生と変える大学教育』（ナカニシヤ出版、2009年）の事前貸し出しを致します。当センター（内線 5837）までご連絡ください。**

本集中共同学習会は、当センターが今年度より取り組んでおります「科学研究費（学習意欲を高める授業科目が教育成果全般に及ぼす影響とその評価（基盤研究 c 20600007）平成20年度～24年度）」に基づく研究遂行の一環です。また、当センターではキーパッド・ジャパン社との共同研究「クリッカー（商品名 turning point）を用いた授業内容・授業方法等の改善」（平成20年12月24日～平成23年5月31日）を行っております。